

平成28年度 三条市特別活動部 活動報告

部長 菊地 博之

1 研究主題

- 学校や学級の実態、発達段階に応じて自主的活動・実践的な活動を助長する指導の在り方

2 研究の概要

- 実践や協議などを通して、特別活動における指導の基礎や効果的な指導について明らかにする。

3 研究の実際

今年度は、「授業研究」と「実践交流」の二本の柱で研究に取り組んだ。

(1) 授業公開から

- ◎ 講師として、次の二人の方から指導していただいた。

高崎経済大学 講師 橋本 定男 様
見附市立見附第二小学校 校長 堀江 哲 様

- 特別活動の〔共通事項〕の再確認を

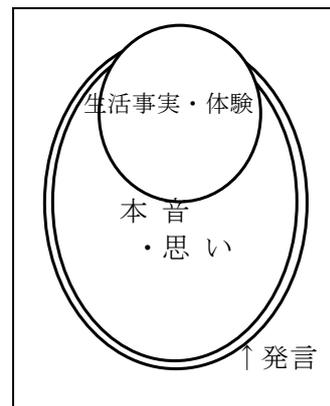
- ・「(1) 学級朝会や学校の生活づくり」の内容の特質から見た話し合い活動
→集団討議による集団目標の集団決定の場

- ・「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の内容の特質から見た話し合い活動

→集団思考を生かした個人目標の自己決定の場
このことを踏まえた指導計画の立案が必要である。

- 本音を引き出す工夫・手立てを

- ・提案のしくみづくり
- ・議題の選定（自分事として考えられるもの）
- ・話し合いの展開をイメージした1時間の指導計画立案
- ・グループの効果的な活用
生活班・・・意見を1つにまとめるような閉じた話し合いが効果的
学習班・・・ブレインストーミングのような開いた話し合いが効果的



- 物事の見方を柔軟に（教師も子どもも）

- ・鳥の目・・・上から全体が見える。リアリティーがない。顔が見えない。
- ・虫の目・・・一人一人が見える。全体が見えない。

(2) 実践交流から

各自が実践していることを紹介し合い、意見交流を行った。話題は、学級活動や児童会活動、学校行事など多岐にわたったが、研究主題にかかわって共通する点をまとめると以下のとおりとなる。

- 活動の目標（ゴール）を明確にする。
- 話し合いの機会を保障し、前述のことに留意しながら指導・支援を行う。
- 活動形態に変化をもたせる。（縦割り班・ペア学年・小中連携など）

4 成果と課題

今年度は、授業研究を通して協議したり、指導していただいたりすることができ、部員にとって具体的な場面をイメージしながら学べた。早速、実践に生かそうと取り組む部員も見られ、意欲向上にもつながった。今後、実践を通して理解を深めていきたい。